備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成１７年度～	根拠法令・例規等	備前市吉永美術館設置条例
総合計画 大項目 / 基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	生涯学習課
中項目 / 基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり	職・氏名	主査　藤田千鶴
小項目 / 施策	01 文化芸術の振興	電話	８４－３８３９
事務事業名	04 吉永美術館管理運営事業	このシート作成に要した時間	2.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	郷土の歴史に興味のある方、美術品をギャラリーとして展示したい方
目的（何のために）	郷土に関する資料の収集・保存を行うと同時に、展示によって郷土の歴史や文化についての理解・認識を深め、郷土の財産として後世に伝える。また、貸ギャラリーとしての貸館業務を行う。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	郷土の歴史や文化についての理解・認識を深める。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
吉永美術館管理運営事業	施設の運営・維持管理・貸館業務	○

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	1,529	1,689	618
	必要人員人件費		0.05人 503	0.04人 372	0.01人 64
	事業費計		2,032	2,061	682
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担			22	26
	繰入金				
	市債				
	その他（寄附金）			1,000	
	一般財源		2,032	1,039	656
受益者負担比率		%	－	1.1%	3.8%

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	説明	吉永美術館総利用者数		
結果指標量		476	789	718
対前年比	%	69.8%	165.8%	69.8%
活動コスト	円	2,032,000	2,060,000	698,000
単位当たりコスト		4,269	2,611	972

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	700	700	700	800
	実績値（B）	476	789	718	到達目標値
	達成率（B/A）	68.00%	112.71%	102.57%	800

成果指標設定の考え方・式や説明

吉永美術館の利用者数

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 / 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ■ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト / 手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ■ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度 / 市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**C**

事業の目的やその数値目標、事業の成果指標や到達目標値に留意しながら有効性を評価

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：全４回の所蔵展を企画。今後ＰＲしていく。

総合評価

美術館としての機能は利用客数の現状を考慮すると閉鎖もやむを得ない状況である。だが、郷土歴史資料の適切な保管を行うところが他になく、市が責任をもって管理運営し郷土の財産として後世に伝えていく事が必要。

総合評価（A 高い / B やや高い / C 普通 / D やや低い / E 低い）：**D**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：利用者数の増加を図りながら、引き続き維持管理を行う。